

【選択】日本史研究の最前線

- ◆期日 令和3年8月16日(月)~8月18日(水)
- ◆主な対象 中学校・高等学校地歴科教諭
- ◆定員 80名
- ◆会場 渋谷キャンパス
- ◆応募期間(仮申込) 令和3年4月16日(金)10:00~4月20日(火)23:59
- ◆受講料 2万円
- ◆時間数 18時間 【選択領域】受講者が任意に選択して受講する領域
- ◆講習内容

現在の日本史学界では、どのようなことが問題とされ、いかなる解決策が提示されているのでしょうか。本講習では、日本史(古代史・中世史・近世史・近現代史)のみならず、隣接する考古学や外国史(中国史)の講座も用意し、教科書の内容に即して、多角的な視点から日本史研究の最新の動向を紹介します。また講習にあたっては、考え(学説)の根拠となる史資料(文献史料・考古資料など)の扱いにも留意します。

◆担当講師

- 谷口 康浩 國學院大學文学部教授
- 佐藤 長門 國學院大學文学部教授
- 高橋 秀樹 國學院大學文学部教授
- 吉岡 孝 國學院大學文学部教授
- 柴田 紳一 國學院大學文学部准教授
- 神長 英輔 國學院大學文学部教授

◆シラバス

講義名	部族社会から首長制社会へ—先史社会の考古学—
担当講師	谷口 康浩
講義概要	<p>考古学の発掘調査・研究の進展によって、先史時代の新たな事実が次々と明らかとなり、歴史的評価の見直しが進められている。社会考古学の面では、縄文時代の狩猟・採集民社会から律令国家の形成にいたるまでの長い歴史的過程を、豊富な出土資料に基づいて実証的に検討できるようになってきた。中国や西アジアに比べて文字使用の普及も都市・国家の形成も遅れた日本だが、人間社会の悠久の歴史を考古学によってこれほど綿密に研究できる地域は世界的にも稀であり、緻密な研究成果に注目が集まっている。</p> <p>この講義では、縄文時代の東日本地域に発達した分節的な部族社会、および初期国家への胎動が始まった弥生時代末から古墳時代初頭の首長制社会を取り上げ、先史時代の社会を考古資料からどのように復元できるか、また社会構造が複雑化していく過程と要因について考古学的にどのように説明できるのかを、具体的な資料を用いて解説したい。講義のポイントは、二つの時代の社会の組織原理や政治的関係を対比的に考えることであり、あわせてそれを語るための資料と考古学の研究法を理解してもらうことである。</p> <p>授業のテーマ</p>

	第1講 縄文時代の環状集落と部族社会 第2講 倭国王と銅鏡
評価方法	講義の最後 15～20 分で記述式テストを行います。

講義名	古代の権力構造—専制君主制下の古代史—
担当講師	佐藤 長門
講義概要	<p>戦前・戦中教育の反省から、戦後の日本史教育では天皇（大王）を極力排除し、氏族中心の歴史叙述がおこなわれてきました。その傾向はいまでもほとんど変わっていませんが、専制君主制をとっていた古代日本においては、好むと好まざるとにかかわらず、天皇の存在を無視することは歴史事実を歪めてしまうことになりかねません。本講座では以上の観点にもとづき、日本古代の権力構造について史料に即したニュートラルな立場（実証史学）から検討してみたいと思います。その際、時間的な制約もありますので、論点を下記の3つにしぼり、それぞれ最新の研究動向を紹介していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 蘇我氏は権力篡奪をねらったのか ii) 女帝はなぜ即位したのか iii) 藤原氏は他氏排斥をしたのか
評価方法	講義の最後 15～20 分で、確認テストをおこないます。

講義名	日本史教科書と中世史研究
担当講師	高橋 秀樹
講義概要	<p>この数十年で日本史教科書は大きく変わったと言われています。ところが、最新の教科書で学んだはずの今の学生たちの日本史に関する知識が、数十年前の教科書レベルなのはなぜでしょうか。その一因に、中学校や高等学校の先生方による古い知識の刷り込みはないでしょうか。</p> <p>この講義では、中世史分野のいくつかのトピックを取り上げて、数十年前の教科書と現在の教科書の記述変化や、現行教科書間の記述の違いを確認していただき、その記述の背景となっている学説状況について考えます。</p> <p>(1) 院政～鎌倉時代 中世とはどういう時代なのか、武士の誕生、鎌倉幕府の成立、鎌倉文化などについて取り上げる予定です。</p> <p>(2) 南北朝～戦国時代 室町幕府と朝廷、日明貿易、南蛮貿易、信長と秀吉などについて取り上げる予定です。</p>
評価方法	講義内の 20～30 分を使って行う 800 字程度の論述により評価します。

講義名	江戸時代の庶民生活
担当講師	吉岡 孝
講義概要	<p>本講義では二つの側面から江戸時代の庶民生活について説明する。</p> <p>①江戸時代の庶民衣料。江戸時代は全国各地でさまざまな衣料製品が産出された時代であるが、その背景にあったのは庶民の衣料製品の需要である。その変遷を追いながら、庶民に対する衣料の浸透を考察する。また開港による影響も視野に入れ、在来産業を強靱さについても説明したい。</p> <p>②江戸時代の庶民教育。江戸時代は庶民レベルまで家が成立した時代であり、家を発展させるためには子どもに教育を享受させることが望ましかった。寺子屋のテキストを中心に江戸時代の初等教育の実像を明らかにしたい。またその教育がもたらした文字社会とはどのような性格のものであったのかについても言及したい。</p>
評価方法	評価方法 講義の最後15～20分で、確認テストを行います。

講義名	柴田 紳一
担当講師	日本近現代史研究の現状
講義概要	<p>時に歴史研究者は、歴史教科書に一箇所しか現われない出来事、事物、人物、あるいは教科書に一箇所も現われないそれらのわずか一つに生涯を捧げます。教科書の簡潔な記述の背景、あるいは下層には、数多の史料、研究が重層しています。通説の確定、通説への疑問、通説の否定、通説の再確定、様々な営為が反復行なわれます。「暗記科目」などともいわれる歴史を、教える者・学ぶ者に大きなドラマ、またはストーリーとして感じ考えてもらうには、教科書記述の裏面に存在する数多のサイドストーリーのごく一端だけでも知ることが捷径なのだと思います。この講習では、激動の日本近現代史において、連続したもの、断続したもの、それぞれに焦点を当て、一つの時代として大きく俯瞰することを目的とします。</p>
評価方法	評価方法は、講義終了前の15～20分間に小テストを実施します。

講義名	東北アジア史としての日露関係史
担当講師	神長 英輔
講義概要	<p>17世紀から20世紀後半までの東北アジア史としての日露関係の近世・近代・現代史を概観します。</p> <p>講義では、日露関係を中心とした日本列島・朝鮮半島・中国東北部・モンゴル・ロシア極東の各地域間関係をおもな考察の対象とし、諸地域相互の連関と地域横断的な諸問題を検討します。19世紀半ば以降については、ロシア、イギリス、アメリカなどの諸国家によってこの地域が近代世界システムに統合されていく過程の考察に重点を置きます。</p> <p>講義の目標は、東北アジア近現代史におけるさまざまな問題を諸地域の相互連関の中で考察できるようになることと、地域横断的な諸問題を扱うための研究方法を自らの研究に応用できるようにすることです。</p>
評価方法	講義の最後15分～20分程度で確認テストを行います